

例会佳句

梅雨が明けると夏本番となる。日差しが強くなり、気温は急に高くなり、盛夏は頂点に達する。学校は夏休みに入り、涼を求めて海や山に出かける人々が多くなる。

入梅とか梅雨はちょうどこの頃、梅の実が熟すことからきている。南の太平洋高気圧が次第に発達し、日本列島に沿って梅雨前線が生じ雨が降り続く。湿度が高く細菌が繁殖するので食中毒に要注意だ。たまの晴れの時に室内の風通しをよくし、不衛生になりがちなこの時期を無事に乗り切るようにしたい。

夏至は北半球では昼が最も長く、夜が短い日で、冬至はその逆。太陽が最も当たるので一番暑くなってもよさそうだが、まだしのぎやすい。春分の日、秋分の日、昼と夜の時間が同じ。でも平均気温は大分違い、東京では秋分の日が約二五度、春分の日が約一四度で、一〇度近い差がある。大気全体が暖まったり冷えたりするのに時間がかかり、日光と気温の季節変化に約四五日のズレが生じるためである。

八月七日は早くも立秋。残暑はまだまだ厳しいが、朝夕涼気を感じるようになる。「暑さ寒さも彼岸まで」というように、秋分の日を迎えると暑さも峠を越える。(四季の会 世話人) (「シツク」の俳句は会員互選の上位句)

分かち合う水に安らぐ植田かな
梅雨晴や窓という窓開け放つ
一寸だけマスクはずしぬ青田風

神奈川 中本 萬里

百選の滝へと旅のまわり道
夏めくや箱根鉄道窓をあけ
時無しの葉擦れの過客今年竹

大阪 加藤 あや

手庇に信号を見ゆ夏きざす
糊利かす兄のお下がりが藍浴衣
妻の留守厨に匂ふ豆の飯

千葉 安彦 緑泉

起重機の首は夏めく雲を突く
みちのくの植田に夕日燃えて落つ
膝の上の画帳に散りぬえこの花

宮城 鈴木 わかば

堰切りて水ほとばしる植田かな
まな板を跳ねて盛られし洗ひ鯉
夏めきてランニングの子すれ違ひ

東京 坂本 州賢

香立つか酒米用の植田なり
夏の草シートを破り一〇センチ
大洋を鏡に満つる夏の星

東京 北詰 南風

千川の流れに子ガモ親を追ひ
夏めきてゆつくり散歩夕暮れに
梅檀ばいたんや花も香りもゆかしくて

東京 坂本 秀浩

夏めくややたらに速き誕生日
萬緑の中に見果てぬ夢を見る
夏の日に父の齢を超えにけり

千葉 加藤 浩雲

伝説を今に伝えて夏の星
葉桜となりていつもの無人駅
闊歩する健康美人衣更

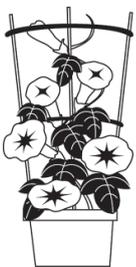
兵庫 高森 功一

連作を避けし種選る日永かな
麗かや鳶の輪長き武甲山
放棄田に重機の埃揚雲雀

埼玉 三神 岳酒

山頂に至る千枚植田かな
川床やぼんぼり灯りお越しやす
梅雨晴間傘でゴルフの素振りかな

東京 中西 麦人



水道・下水道人の俳句の会 「四季の会」 入会歓迎

申込先 〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-9
日本水道会館内 日本水道新聞社気付
「四季の会」世話係 まで